

児童の安全に関する国際比較 (第1報)

— 日本・中国・台湾の児童を対象とした調査結果から —

054

むらかみけいし

○村上 佳司 (天理大学), 木宮 敬信 (常葉学園大学), 阪田 真己子 (同志社大学)
堀 清和 (兵庫医科大学), 姜 逸群 (台湾師範大学), 黄 雅文 (亞洲大学)

【背景】: 国籍や民族の異なる人々が互いの文化的違いを認め、対等な関係を築くことによってもたらされる安心・安全な多文化共生社会の実現において、安全教育は重要な役割を果たすことになる。近年、日本においても多くの外国人が居住するようになり、在日外国人児童に対する安全教育の必要性は高まるばかりである。

【目的】: 在日外国人児童に対する安全教育を検討するためには、諸外国における安全教育の現状に加え、彼らの安全知識や意識などについて把握することが必要である。イギリス等の安全教育先進国の状況は、日本でもよく知られているが、多くの在日外国人のいる中国、台湾といったアジア諸国において、現地でどのような安全教育が実施されているかについては、ほとんど研究がなされていない。このことから、日本、中国、台湾の小学生を対象に安全教育の現状と児童の安全意

識を調査し、各国の児童の安全に関する意識および実態を検証することとした。なお、本報では、児童の安全意識および実態についてのみ報告する。

【方法】: 2009年～2010年にかけて、児童を対象としたアンケート調査を日本、中国、台湾の3カ国で実施した。(日本: 17721名、中国: 1498名、台湾: 1800名) 調査項目は、安全に関する知識・意識・行動などに関する36項目である。

【結果】

1) 各項目において、3カ国を比較した結果、中国、台湾が日本に比べ適切に対応している項目が多くあった。

2) 中国、台湾のPCや携帯電話の利用率が非常に高いことがわかった。また、インターネットの利用に関するトラブルに遭遇した経験を多く持っていることが明らかとなった。

日・中・台 アンケート調査結果比較

	はい(選択肢a)						いいえ(選択肢b)					
	日本		中国		台湾		日本		中国		台湾	
	度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)
Q1	おうちの人と、防犯(こわい目、危ない目にあわない方法)について話すことはありますか											
	9469	56.0	1217	81.5	1232	68.9	7443	44.0	277	18.5	556	31.1
Q2	出かける時に、おうちの人行き先を伝えますか											
	14783	87.7	1434	96.0	1701	95.5	2066	12.3	59	4.0	81	4.5
Q3	出かける時に、おうちの人に帰る時間を伝えますか											
	12898	76.6	1267	85.0	1378	77.9	3939	23.4	223	15.0	391	22.1
Q4	なにかあった時に、おうちの人と連絡をとる方法を知っていますか											
	10663	63.1	1446	97.1	1676	94.1	6230	36.9	43	2.9	105	5.9
Q7	学校で決まっているきまりをきちんと守っていますか											
	12926	77.0	1469	98.5	1718	96.5	3852	23.0	22	1.5	63	3.5
Q16	あなたは、おうちでパソコンや携帯電話のインターネット(ホームページ)を一人(子どもだけ)ですることはありますか											
	5373	31.7	810	54.6	840	47.4	11552	68.3	673	45.4	932	52.6
Q17	あなたは、自分用の携帯電話を持っていますか											
	4373	25.9	792	53.3	509	28.7	12518	74.1	694	46.7	1266	71.3
Q18	おうちの人以上と携帯電話やパソコンでメールのやり取りをしていますか											
	3257	19.3	590	39.6	572	32.3	13641	80.7	900	60.4	1199	67.7
Q19	インターネット(パソコンや携帯電話)を使っていてトラブルに巻き込まれた(こわいと思ったり嫌だと思った)ことはありますか											
	1146	6.8	553	37.3	689	39.1	15747	93.2	928	62.7	1072	60.9

【考察】: 中国と台湾については、全体的に日本よりも高い安全意識を有しているようである。家庭での安全意識が高いことは、自分の安全は自分で守るといった意識が日本よりも強い影響ではないかとも考えられる。また、ITに関しても中国と台湾においては、

利用率の高さに伴うトラブルが多く見られ、注意が必要である。

【結論】: 中国や台湾の児童が適切な回答をする項目が多くあった要因について、学校での安全教育の現状や家庭環境など様々な角度から検討を試みる必要性が感じられた。

・発表者 (村上) 連絡先: keishi@sta.tenri-u.ac.jp

・一般口演に参加をお願いしたい方: アジア諸国の教育に詳しい方、学校保健関係者